

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K07317

研究課題名（和文）認知症高齢者の新型コロナウイルス感染予防実践に向けた環境作りのための研究

研究課題名（英文）Study on Creating an Environment for Preventive Measures Against COVID-19 for older adults with Dementia

研究代表者

石井 伸弥 (Ishii, Shinya)

広島大学・医系科学研究科（保）・寄附講座教授

研究者番号：80710996

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではCOVID-19流行下において認知症高齢者と家族において生じた影響を明らかにするため、調査票調査およびインタビュー調査を実施した。調査票調査は全国の高齢者医療・介護施設を対象に3年間で合計3回に渡り実施し結果を縦断的に評価した。感染予防の実施に伴う生活の変化によって社会的交流や運動の機会が減少し、認知症の人の病状に大きく影響が生じていたことなどが明らかとなった。インタビュー調査は認知症家族、介護支援専門員、高齢者医療介護施設スタッフを対象に実施した。感染に対する不安やその受け止め方に関するずれもみられたが、一方ケア従事者や家族に対する信頼の再確認などもみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、新型コロナウイルス感染症流行下では認知症の人やその家族が感染の有無にかかわらず大きな影響を受けたこと、特に外出自粛や施設における面会制限などの感染予防の取組によって認知症症状の悪化や身体機能の低下等の悪影響を受けていたこと、感染長期化によってこうした悪影響がより広範にみられることなどが明らかとなった。この成果は感染対策をどのように緩和するかを検討する際の基礎データとして重要である。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted questionnaire surveys and interviews to clarify the impact of the COVID-19 pandemic on older adults with dementia and their families. The questionnaire surveys were conducted nationwide on medical and long term care facilities three times over a span of three years, and the results were evaluated longitudinally. It was revealed that changes in daily life due to the implementation of infection prevention measures significantly affected the condition of people with dementia, as opportunities for social interaction and exercise decreased.

The interview survey was conducted on families of people with dementia, care managers, and staff at medical and long term care facilities. Although discrepancies were observed in anxiety about infection and perceptions of the situation, there was also a reaffirmation of trust in care workers and family members.

研究分野：老年病学

キーワード：新型コロナウイルス感染症 認知症 介護施設 要介護度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

COVID-19 では高齢者、特に 80 歳以上において死亡率が高いことが報告されている。本邦において 80 歳以上人口は約 1,154 万人と報告されているが、うち認知症者は約 4 割を占め、認知症者における感染予防は重要な課題である。特に、高齢者介護施設では入居者の約 8 割が 80 歳以上であるとされ、さらにそうした施設系サービス利用者の約 9 割が介護保険認定における認知症高齢者の日常生活自立度 以上(ほぼ認知症の状態に相当するとされている)であることから、高齢者介護施設においては、とりわけ新型コロナウイルス感染症流行対策において、認知症高齢者への対応が重要であると考えられる。

しかし、認知症の人では、新型コロナウイルス感染症に対応していく上で多くの課題が考えられる。感染予防にあたっては 3 密の回避(密集、密接、密閉)やこまめな手洗いなどの新しい生活様式の実践が必要であるとされているが、認知症の人では認知機能低下による情報やサービスへのアクセスの困難さ、環境変化への適応の困難さから地域における感染状況を把握し、新しい生活様式を実践することが困難である可能性が想定される。さらに、感染拡大下においては、外出自粛や医療介護施設における面会制限などの感染予防のための取組が広く行われることとなるが、それによって身体機能の低下や認知症症状の悪化などの悪影響が生じることが懸念される。認知症症状によって隔離などの必要な対応が困難であることが考えられる。

これまで COVID-19 の対策としては感染予防に焦点をあてたものが主であり、感染予防の取組による生活環境の変化が引き起こす悪影響やその悪影響の緩和という観点からの検討は不十分であった。しかし、環境変化による悪影響が生じやすい認知症者においては、悪影響の緩和策も含めた感染予防の取組が重要となってくる。そうした取組の検討にあたっては、COVID-19 流行下において認知症者や家族、医療・介護施設、介護サービス事業所等に生じた変化や実施された取組を定性的、定量的に評価することが必要である。

2. 研究の目的

本研究は COVID-19 流行下において高齢者、特に認知症高齢者とその家族において生じた影響を明らかにし、感染拡大を予防するための支援について検討をすすめることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究では 3 年間にわたって以下の調査を実施した。

全国調査：

全国の高齢者医療・介護施設、介護支援専門員を対象として合計 3 回(第 1 回目：2020 年 6 月 18 日～7 月 10 日、第 2 回目：2021 年 10 月 29 日～12 月 24 日、第 3 回目：2023 年 1 月 19 日～2 月 24 日)に渡り、一般社団法人日本老年医学会と共同で調査を実施した。高齢者医療・介護施設に対しては該当施設に入所中の認知症の人について、介護支援専門員に対しては回答者がケアプランを作成している認知症利用者およびその家族について回答するよう依頼した。いずれの調査においても、関係団体(日本慢性期医療協会、全国老人保健施設協会、全国老人福祉施設協議会、日本認知症グループホーム協会、全国介護付きホーム協会、日本介護支援専門員協会、広島県介護支援専門員協会)に協力を依頼して、各関係団体の会員である施設または介護支援専門員に対して自記式オンラインアンケート調査へのリンクを配布し、対象となる施設または介護支援専門員に回答を依頼した。

インタビュー調査

コロナ禍における認知症高齢者の実態をより詳細に調査するため、認知症家族介護支援専門員、高齢者医療介護施設スタッフに対するインタビューを秋田大学と共同で実施した。インタビューは対面で、半構造化面接によって 2020 年 10 月から 2021 年 2 月にかけて行われた。対象者は機縁法を用いてリクルートを行った。インタビュー結果は文字起こしを行い、テーマティック・アナリシス法で解析した。

4. 研究成果

全国調査

第 1 回目調査は 945 施設、751 名の介護支援専門員、第 2 回目調査では 686 施設、241 名の介護支援専門員、第 3 回目調査では 995 施設、436 名の介護支援専門員から回答を得た。いずれの調

査においても、回答した施設、介護支援専門員は全国 47 都道府県に分布していた。高齢者医療・介護施設では、回答した施設類型として特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホームが多数を占めていた。いずれの調査においても、回答した施設の半数以上において認知症入所者の割合が 75%以上を占めていた。回答施設が新型コロナウイルス感染症によるクラスターを経験した割合は調査を経る毎に高くなり、第 3 回調査では約 6 割の施設がクラスターを体験していた。

これら 3 回の調査から以下が明らかとなった。

- 1) 在宅認知症高齢者において、COVID-19 流行下において介護保険サービスの利用中断・縮小が幅広く起こっていた。そうした場合、家族が急遽介護を担うケースが多く、経済的・身体的・精神的介護負担が生じていた。また、こうした介護保険サービスの利用状況の変化によってどのような影響が認知症の人の日常生活に生じたか尋ねたところ、体を動かす時間が減った、他の方とふれあう時間が減った、との回答が特に多く寄せられた。影響はなかったとする回答は 1 割以下に留まっており、広範囲で影響が生じていたと考えられる。割合としては低いものの、服薬介助や管理が出来ず、薬がきちんと飲めなくなった、医療行為や医療的ケア（喀痰吸引や胃瘻などの経管栄養）が受けられないことがあったなどの回答もみられた。
- 2) 多くの医療・介護施設において、感染予防の取組として、外出制限や面会制限、施設へのボランティア訪問の中止、訪問歯科や訪問美容の中止などの外部との交流制限を行う取組が幅広く行われていた。さらに、一部の施設においては、施設内での催し物（子供の日など）や集団・個別リハビリ、レク活動の縮小もしくは中断、食事や入浴の時間・提供場所の変更、共用スペースの利用制限・利用方法の変更（対面を避けるなど）も行っていた。さらに、約 4 割の施設においては、感染流行の波に関わらず長期的に感染予防対策としてこうした外部との交流制限を実施していた。
- 3) 医療・介護施設において COVID-19 によるクラスターが発生し、感染者に認知症の人が含まれていた場合、感染予防に協力が得られない、感染によって認知症症状や行動・心理症状の悪化がみられた等の理由によって対応に苦慮していた。また、感染した認知症の人への対応のため、一部の施設では身体拘束を行わざるを得ない状況が生じていた。
- 4) 感染予防対策の結果生じた日常生活上の制限によって認知症高齢者の状態に変化が生じたか尋ねたところ、第 1 波の後に実施した第 1 回調査では医療・介護施設 38.5%、ケアマネ 38.1%、第 5 波の後に実施した第 2 回調査ではそれぞれ 52.6%、56.8%、第 8 波の後に実施された第 3 回調査では医療・介護施設の 69.5%、ケアマネの 56.9%で影響が生じたと回答しており、新型コロナウイルス感染症流行が長期化するにつれて感染予防対策の結果生じた日常生活上の制限で悪影響が生じたと考える医療・介護施設、介護支援専門員の割合は高まっていた。
- 5) 感染予防対策の結果生じた日常生活上の制限で悪影響が生じたと回答した医療・介護施設、介護支援専門員に対し、どのような影響が生じたか、軽度・中等度と重度認知症に分けて質問したところ、多岐に渡る影響が回答として挙げられたが、特に基本的日常生活動作の低下、認知機能の低下、行動心理症状の出現・悪化、興味・関心、意欲の低下、身体活動量の低下などは高い割合でみられていた。第 3 回調査においては、多くの項目において軽度・中等度認知症よりも重度認知症に影響がみられた割合が高かったが、興味・関心、意欲の低下に関しては認知症の重症度に関わらず幅広くみられている。

なお、詳細な報告書は日本老年医学会および広島大学大学院医系科学研究科共生社会医学講座のホームページ上にて公開した。

インタビュー調査

4 名の認知症家族（広島大学 2 名、秋田大学 2 名）、15 名の介護支援専門員（広島大学 3 名、秋田大学 12 名）、27 名の高齢者医療介護施設スタッフ（広島大学 4 名、秋田大学 23 名）に対してインタビューを実施した。

インタビューから、認知症ケアに関わる様々な立場の介護者に対し COVID-19 が与えた影響について 22 のテーマが明らかになり、それらを 6 つのカテゴリーに分類した。核心的なテーマは「ケアの優先順位の再認識」と「関係の再構築」だった。ケアの優先順位に関する意思決定プロセスでは、異なる立場の介護者の認識が一致したとき、「信頼の再確認」と「親密な関係の強化」が肯定的な変化として現れた。また、COVID-19 に関する正確で適切な情報にアクセスし選択する能力の違いや地域での感染拡大の程度が「COVID-19 パンデミック中の不安」と関連し、感染対策に関する「認識のギャップ」を引き起こしていた。この結果は、感染症流行下や災害時の認知症ケアのあり方検討に有用であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 石井伸弥	4. 巻 38
2. 論文標題 全国調査から明らかとなった感染流行長期化による影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 299-303
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ishii Shinya, Tanabe Kazutaka, Ishimaru Bunji, Kitahara Kanako	4. 巻 24
2. 論文標題 Impact of COVID-19 on Long-Term Care Service Utilization of Older Home-Dwelling Adults in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 156 ~ 163.e23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jamda.2022.12.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 23
2. 論文標題 Future direction of geriatric care service provision system for dementia that can respond to infectious diseases	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 458 ~ 459
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14592	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 22
2. 論文標題 Long term impact of the COVID 19 pandemic on facility and home dwelling people with dementia: Perspectives from professionals involved in dementia care	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 832 ~ 838
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14465	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Shinya, Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro	4. 巻 22
2. 論文標題 Home care for older people with dementia where family caregivers were infected in the COVID 19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 906 ~ 907
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14476	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 22
2. 論文標題 The impact of the COVID 19 pandemic on services for community dwelling adults and people with dementia, and their families' intentions to use those services	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 686 ~ 688
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14440	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 22
2. 論文標題 Experiences with COVID 19 cluster infections in geriatric care facilities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 537 ~ 539
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 22
2. 論文標題 Geriatric care facilities' concerns regarding hospital admission of infected residents with dementia or transport for admission in the COVID 19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1050 ~ 1052
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14499	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 22
2. 論文標題 Restrictions on visits and outings in geriatric care facilities during the COVID 19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 982 ~ 983
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazawa Kana, Kubo Tatsuhiko, Akishita Masahiro, Ishii Shinya	4. 巻 -
2. 論文標題 Future direction of geriatric care service provision system for dementia that can respond to infectious diseases	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14592	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kana Kazawa, Ayuto Kodama, Kaoru Sugawara, Mikio Hayashi, Hidetaka Ota, Daisuke Son, Shinya Ishii	4. 巻 22
2. 論文標題 Person-centered dementia care during COVID-19: a qualitative case study of impact on and collaborations between caregivers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-022-02794-1.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 加澤佳奈、石井伸弥、秋下雅弘、久保達彦
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染流行長期化による認知症高齢者と介護者への影響
3. 学会等名 日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井伸弥
2. 発表標題 コロナ禍における 認知症の人との共生
3. 学会等名 日本慢性期医療学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加澤佳奈, 小玉鮎人, 林幹雄, 大田秀隆, 孫大輔, 石井伸弥
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症拡大による認知症ケアに携わる者への影響
3. 学会等名 認知症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井伸弥
2. 発表標題 コロナ禍における高齢者支援からみえてきたこと
3. 学会等名 老年医学会中国地方会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井伸弥
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下における認知症高齢者及び家族への支援
3. 学会等名 老年医学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保 達彦 (Kubo Tatsuhiko) (00446121)	広島大学・医系科学研究科(医)・教授 (15401)	
研究分担者	加澤 佳奈 (Kazawa Kana) (10740102)	岡山大学・保健学域・准教授 (15301)	
研究分担者	河村 敦子 (Kawamura Atsuko) (90509530)	広島大学・医系科学研究科(保)・寄附講座講師 (15401)	
研究分担者	大田 秀隆 (Ota Hidetaka) (20431869)	秋田大学・高齢者医療先端研究センター・教授 (11401)	
研究分担者	林 幹雄 (Hayashi Mikio) (30897749)	関西医科大学・医学部・講師 (34417)	
研究分担者	孫 大輔 (Son Daisuke) (40637039)	鳥取大学・医学部・准教授 (15101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------